

授業科目 身体障害作業療法学実習

【担当教員名】 岩崎テル子、大山峰生	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G I O】

作業療法の対象となる身体障害の治療・指導・援助の内容・手技・手段を身につける。

【行動目標：S B O】

1. 評価実習における問題点が理解でき、対処法を整理できる。
2. ICFに則った症例報告の整理を行うことができる。
3. 与えられた症例の一般情報と作業療法評価の結果から治療計画を立案できる。
4. 3 の治療計画に基づいてシミュレーション治療を試みる。
5. クリニカルリーズニングの方法を修得する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	評価実習における問題点を抽出しまとめる（話し合い）	1	Group活動
2	同上（各Groupでのまとめ）	1	Group活動
3	評価実習における問題点別解決法	1	Group発表・討議・講義・実技
4	評価実習における問題点別解決法	1	Group発表・討議・講義・実技
5	評価実習における問題点別解決法	1	Group発表・討議・講義・実技
6	評価実習における問題点別解決法	1	Group発表・討議・講義・実技
7	評価実習における問題点別解決法	1	Group発表・討議・講義・実技
8	評価実習における問題点別解決法、クリニカルリーズニングとは	1, 4	Group発表・討議・講義・実技
9	ICFに則った症例報告の整理	2	講義・討議・実習
10	ICFに則った症例報告の整理	2	講義・討議・実習
11	評価担当ケースでの治療計画（LTG、STG、治療プログラム）立案	3, 4	講義・討議・実習
12	臨床実習に備えて：勉学不十分な疾患に対する作業療法の実施	1, 2	
13	脊髄損傷、慢性関節リウマチ、末梢神経損傷、切断、骨折、内外疾患、神経難病、神経筋疾患など	3, 4	講義・討議・実習
14		5	

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	作業治療学 1 身体障害	日本作業療法士協会	協同医書出版	1999、3500円
参考書	①作業—その治療的応用、	日本作業療法士協会、	協同医書出版社、	1985、8500円
	②図解：作業療法技術ガイド、	石川斎、古川宏編、	文光堂、	最新版、7000円
その他の資料				

【評価方法】 出席点：10％ Group活動と発表40％ 期末試験：レポート提出30％、筆記20％	【履修上の留意点】 作業の段階づけ、作業分析、動作分析、指導技術を確実に身につけるよう常に努力する。
--	---